

ACTR調査研究進捗特集

本年度もコロナ禍の中、感染症対策をしながら多数の調査研究が進められています。今回は、研究調査の一部をお伝えいたします。

KIRPについて

京都地域未来創造センター(KIRP)は、京都府立大学の「知」を活かし、地域の未来を創るための拠点として発足した地域に向けた総合窓口です。共同研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

Tel : 075-703-5390
mail : kirpinfo@kpu.ac.jp
HP : <https://kirp.kpu.ac.jp/>

〒6068522
京都市左京区下鴨半木町
1-5 7号館 1階

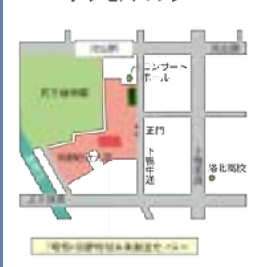
京都府立大学
京都地域未来創造センター

KYOTO INSTITUTE FOR
REGIONAL PROSPECTS

WEBサイト



アクセスマップ



■与謝野町

「与謝野町温江地区の棚田における土壌と稲の関係」

研究代表者：生命環境科学研究科 中尾 淳 准教授



報告会のチラシ

中尾准教授の研究グループによるACTR成果報告会が12月に開催されました。

与謝野町・福知山市・宮津市にまたがる大江山連峰は、世界的にも珍しい蛇紋岩で構成される岩帯であり、蛇紋岩地帯で生育された米は高品質であるとされてきましたが、その科学的根拠は未だ明らかになっていません。そこで、中尾准教授を始めとする研究グループで、与謝野町温江地区の「まさ農園」をフィールドとして、**土壌と稲の関係**について調査研究をされています。

今回のACTR成果報告会では、地温と地質（蛇紋岩・花崗岩）の違いが稲の品質にどのような影響を与えるのかという観点での調査研究や、蛇紋岩の影響を受けた土壌から稲がミネラルをどのように吸収しているのかという観点での調査研究の成果が報告されました。

会場では、まさ農園の方々、与謝野町農林課のご担当者、府大の研究者や学生等で、意見交換や質疑応答などが活発に行われ、今後の研究のヒントとなるようなアイデアもあり、たいへん盛況な様子でした。

蛇紋岩という特殊な岩石からできる土壌が稲に与える影響について、今後の研究に期待が高まります。

■京都市

「木材流通京都モデルの構築に向けたICTを活用した森林資源情報の把握と流通システムの社会実装に関する研究」

研究代表者：生命環境科学研究科 神代 圭輔 准教授



実験の様子

京都府立林業大学の「木材加工」の講義において、京都府森林技術センター研究員と、ACTRにて開発中の**木材検収アプリ**(丸太をスマホで撮影すると直径・本数が瞬時に分かるアプリ)及び**強度推定アプリ**(丸太の叩いた時の固有振動数をスマホで測定し強度を推定するアプリ)の実演が行なわれました。

次代を担う若い世代に積極的にICTを活用して欲しいという思いで実施されましたが、学生の反応・感想からも今後の可能性が感じられました。

今回の講義は、スマート林業推進講義として、林業大学校シラバスにも新たに位置付けられています。今後とも、次代を担い、森林・林業に関連する現場で活躍が期待される人材の育成につながるよう、府下の教育機関と連携の上、ACTR研究が推進されています。

また、**三条大橋**は室町時代に造営、洪水の流出等により幾度なく架け替えられ、現在の木製高欄※については昭和49年に更新されています。しか

し、老朽化が進行し、木製高欄の更新をはじめ「三条大橋の補修・修景」が始動しています。

改修される三条大橋の高欄には、特殊な寸法の京都市産ヒノキ材が使われます。ACTR研究で開発した**強度推定アプリ**を活用し、京都府木材組合連合会、京都府森林技術センターと、三条大橋の補修・修景で使用されるヒノキ材の強度性能評価（非破壊での強度測定等）に協力の実施。木材の強度性能等の情報も共有可能なICTを活用した木材流通システムの構築について、関係機関と連携し、ACTR研究として取り組まれています。

※高欄(こうらん)：橋などの両側に設けた欄干(らんかん)

<参考ページ>

三条大橋の補修・修景が進行中！2024年春完成予定～2月22日より京都市公式YouTubeアカウントでPR動画を公開～

<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000294829.html>



■京丹後市

「過疎化が進む地域における文化遺産の地域資源化に向けた実践的研究—京丹後市久美浜町須田区からの発信—」
研究代表者：文学部 歴史学科 諫早直人 准教授

8月に八尾市立しおんじやま古墳学習館主催のオンライン講演会「しおんじやま学び場」において、**湯舟坂2号墳を中心とする文化遺産の地域資源化**に係る学生の取り組み等について、大学院生が紹介しました。

また、10月には京丹後市教育委員会や古墳のある地元須田区との共催で、**ACTR成果報告会「地域資源としての湯舟坂2号墳II—出土品研究の最前線—」**を開催し、多くの方に丹後の古墳の魅力を知らせていただく機会となりました。



報告会のチラシ

■綾部市

「由良川がつなぐ海と森の京都—宮津市由良地区と綾部市上林地区の文化資源の発掘と活用—」
研究代表者：文学部 歴史学科 横内裕人 教授

9月28日（水）に綾部市君尾山ガイド養成トレッキングを開催されました。参加者約30名が睦奇町君尾山（標高582㍎）を登山。地元のネイチャーガイド児玉裕美さんが府内最大のトチノキをはじめ**君尾山の豊かな自然遺産**を解説し、京都府立大学学生がACTRの**光明寺調査成果**を説明しました。暖温帯・中間地帯・冷温帯の樹木が共存し、大トチやモミ、スギなどが残る「巨樹の森」が、光明寺の聖域として護り伝えられてきたことを実感できました。

5年にわたるACTR調査成果のバトンを地元の方々にお渡しすることができました。今後は地域の方々「君尾山の歴史・文化・自然」の語り部として活躍されます。



ガイド養成トレッキングの様子

■城陽市

「城陽市特産物の文化的・文学的・国際的イメージの調査とそれを活用したプロモーションについての研究」
研究代表者：山口美知代 文学部 欧米言語文化学科 教授



シンポジウムのチラシと学生の様子



昨年5月から9月にかけて特産物生産者さんに取材した学生達が**城陽市特産物**（てん茶、梅、花き、イチジク、寺田イモ）を紹介する動画を作成しました。5本を合わせて「**ようこそ城陽へ**」として編集した動画は、英語、韓国語、ドイツ語、中国語版も作成し、これらの動画を12月11日に文化パルク城陽で開かれた「**城陽市・京都府立大学連携協力包括協定締結記念シンポジウム 特産物で語る城陽ストーリー2022**」で成果報告しました。シンポジウムでは、本学教員による研究成果発表も行われたほか、てん茶農家さんの茶葉提供・指導により碾茶を振る舞いました。

過去のACTR研究成果の活用とサテライトオフィス

宮津市 明治の写真師・大橋申廣のセーシェル写真絵はがきパネル展開催報告
@宮津クロスワークセンターオフィス 生命環境科学研究科 松田法子准教授

京都府立大学は、京都府全域のキャンパス化構想の下、昨年開設した舞鶴市のサテライトオフィス（まいづる赤れんがオフィス）に続き、宮津の「前尾記念クロスワークセンター MIYAZU」内にも新たにサテライトオフィスを開設し、この11月から正式運用を開始しました。このたび、同施設における本学最初の企画となる「大橋申廣のセーシェル写真絵はがきパネル展及びミニシンポジウム」が開催されました。

【写真師 大橋申廣とは】

宮津出身の大橋申廣は、明治中頃に東アフリカ沖合のセーシェル諸島にわたり、同地最初の写真師として活躍した人物です。彼の写真絵はがきは、1900年代初期のセーシールの景観や社会を映し出す貴重な歴史資料として評価されています。今回、彼の事跡を知っていただく機会として、青木澄夫氏（元中部大学教授/元JICA職員）がコレクションした大橋の写真絵はがきを元に、松田准教授の企画によるパネル展およびミニシンポジウムが開催されました。



サテライトオフィスでの展示の様子



ミニシンポジウムの様子 撮影：牛久保賢二氏